犬雜載

犬にすかるゝと申あへり、或時岩付の城に、美濃守在之刻、松山にて一揆以外にをこり、北條氏康公御出馬たるべしと有しに、岩付へ使者を立てんには、路次ふさがりて、五騎三騎にては叶はじ、十騎とやらば、松山に人數すくなし、況んや飛脚は叶ふまじきに、内々隱密にて、前の日美濃守留主居の者にをしへたればこそ、文をかき竹の筒を手一束に切て、此狀を入口をつゝみ犬の頸にゆひ付て、十疋はなしければ、片時の間に岩つきへ、其文を犬共持來る、さる間美濃守やがて松山へ後詰をする、一揆共見之、速に岩付へ聞へ、うしろづめをしたるは、希代不思儀の名人かなと不審をなし、爾來松山に一揆發事なし、是は太田三樂と申す者也、

〔日本書紀十五清寧〕三年十月乙酉、詔、犬馬器翫、不得獻上、

〔法華經驗記中〕横川永慶法師

沙門永慶、覺超僧都弟子、楞嚴院住僧也、宿善所催、志在法華、受持諷誦、累年月矣、乃至於本山籠箕面瀧、夜在佛前誦經拜禮、左右人々睡臥同夢、老狗高音吼、立居禮佛、夢覺驚見、沙門永慶擧音禮拜、以此夢語永慶、比丘聞已欲知事緣、七日斷食籠堂祈念、至第七日、夢龍樹菩薩現宿老形告云、汝前生身是耳垂大狗也、其狗常在法華經持者房、晝夜聞法華、因其善力、轉狗果報、感得人身、誦法華經、餘殘習氣在汝身心、是故夢見狗形禮佛耳、比丘夢覺、深懷慚愧、羞歎宿業、尋有緣所、留跡止住、誦法華經、勤六根懺、以今生善、遙期菩提、願不還三途、必生淨土矣、

〔倭名類聚抄十八毛群體〕嘷○中略　唐韻云、○中略　吠符廢反、已上三字嘷、吼、吠、訓皆保由、犬聲也、

〔枕草子二〕すさまじきもの

ひるほゆる犬

にくきもの

しのびてくる人見しりてほゆる犬は、うちもころしつべし、○中略　犬のもろこゑに、ながくと